

広報

# もり 中部の森林

★ ★ ★ ★ ★  
デイスカパー  
農山漁村の宝  
AWARD  
～第10回選定～

募集中!



写真:「付知峡 鳩ノ巣滝」(東濃署管内)

私の森語り「滝めぐりのシーズンがやってきました」  
NPO法人飛騨小坂200滝 理事長 皆越真佐代

## 特集

・ JICAによるパプアニューギニア森林公社職員の現地研修  
各地からの便り

- ・ 管内各地で森林祭などが開催されました
- ・ 「ハヶ岳開山祭」4年ぶりの開催 ほか

## シリーズ

- ・ 森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、  
秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



2023/No.232





旧帝室林野局木曾支局庁舎である木曾町の「御料館」<sup>ごりょうかん</sup> 前での記念撮影

JICA  
 (独立行政法人 国際協力機構)  
 による現地研修を実施

【企画調整課・木曾<sup>きそ</sup>森林管理署】

五月三十一日から六月一日の二日間、木曾森林管理署管内において、パプアニューギニア(以下「PNG」)森林公社(日本の林野庁に相当)の職員五名が参加するJICAの現地研修が実施され、国有林における林地保全への配慮、持続可能な森林経営等について学んでいただきました。

研修生の母国PNGは、美しい海や原生的な森林など、豊かな自然が残り、人と自然が共生する「最後の楽園」と呼ばれています。一方、近年では経済発展とともに、森林の伐採や木材の輸出が行われ、地域の雇用や収入が増えましたが、森林を保全するための伐採等のルールが十分に守られていないため、土壌の流出や水質の悪化など、森林の公益的な機能が失われていることから、森林資源の利用と持続的な管理等が重要な課題とされています。

多様な種が生育する天然林を伐採しているPNGと、スギやヒノキ、カラマツ等の人工林を中心に伐採している日本とは、森林の状態も木材の生産方法も異なりますが、研修生は国内各地での講義や現地研修等により、日本の森林や林業に関する理解を深め、PNGにおける森林保全プロジェクト活動に活用することを目的に来日されており、現地研修の場として、木曾ヒノキ等の美林を維持しながら高品質な木材を生産している木曾地域が選ばれました。

木曾署での研修一日目は講義を中心とし、署長から管内の概要を説明し、次長による研修中の安全指導を行い、各事業担当者から請負事業の発注から完了までの流れ、監督業務、動画によるヘリコプター集材、木曾ヒノキ伐採後の天然更新について説明しました。説明は、すべて日本語で行いましたが、随時、通訳をとおして英語に翻訳されるとともに、事前にJICAで翻訳・配布された資料を使用することで、言葉が違う中



でも説明内容が研修生に伝わり、「事業の契約書の構成について知りたい」「天然更新の障害となる要因を教えてください」との質問が出されました。

木曾署での講義後は、林業遺産として認定された木曾町の「御料館」に移動し、木曾町教育委員会の学芸員から木曾谷の林業の歴史などについて説明を受けました。御料館での研修中、報道機関三社からの取材を受けた研修生のジョン・オラビさんが「この地域の林業の歴史を知ることが自分たちを導いてくれる」と話していたことが印象的でした。

二日目は、管内の国有林内で実施している各事業地を案内しました。

製品生産事業地では、高性能林業機械を使用した架線集材を見学し、研修生は自分のスマートフォン等で集材の様子を撮影するとともに事業者が集材や間伐の方法等について積極的に質問していました。その後、天然更新を進めている現場では伐採後の林地に生育す

る樹木の種類や大きさにより更新状況を確認する調査、造林事業地では植付の検査、林道事業地では事業体との協議を行う監督業務や完成検査をそれぞれ体験してもらいました。

研修生は、どの現場でも熱心に耳を傾け、多くの質問や会話が飛び交い、現場を案内する職員や研修スタッフが一つひとつ丁寧に確認した上で説明し、予定時間を超過する場面もありましたが、研修生がここで得た知識や経験は、PNGの今後の森林保全や管理に必ず寄与し、貢献していくものだと感じました。

中世、近世、現代における木曾谷の林業を二日間で辿る研修を終え、最後に研修生から署へのお礼として現地の木彫り人形が贈られますが、木曾署長からは「働く国は違いますが、私たちは同じ仕事をしています。研修の成果を皆さんの国で活かしていただければ、とてもうれしいです。お互いがんばりましょう」との言葉を贈り、研修を終えました。



高性能林業機械を使用した架線集材を見学



木曾署で講義を受ける様子



林道工事の検査業務について質問する研修生



天然更新の状況確認調査を体験





上小地区森林祭 (UE森2023)  
協定企業と一般参加者が協力してカラマツを植樹



佐久地域森林祭・長野県植樹祭 (佐久会場)  
カラマツを植樹するみどりの少年団



川上村植樹祭  
カラマツコンテナ苗を植樹



南牧村植樹祭  
オオヤマザクラなどの広葉樹を植樹

管内各地で森林祭などが  
開催されました



【東信森林管理署】

とうしん  
五月二十三日、第三十二回佐久地域森林祭並びに第七十三回長野県植樹祭 (佐久会場) が南相木村 (みなみあいきむら) 立原高原で開催されました。

式典では、主催者を代表して南相木村長から歓迎の挨拶、地元小学生のみどりの少年団による「みどりのふれあい宣言」がありました。

あいにくの雨の中での開催となりましたが、来賓によるオオヤマザクラの記念植樹を行ったあと、参加者約百七十名でカラマツのコンテナ苗を二千四百本植樹し、苗木にとっては恵みの雨となりました。

植樹に際し、当署からはコンテナ苗の植栽用パワーアシストドリル「植穴名人」を三台持ち込み、参加者の皆さんに実践を交えて使い方を伝授しました。このような道具が普及し、効率的かつ低コストで再造林が行えることに期待して

います。

五月二十七日には上小地区森林祭が長和町長久保財産区有林で開催されました。今回から名称がUE森に変更され、上田地域振興局長より主催者の挨拶、長和町長からは歓迎の挨拶があり、「上田地域にぎやかな森プロジェクト」の協定企業である九社と一般参加者の約百五十名でカラマツコンテナ苗を約二千二百本植樹しました。

こちらにも「植穴名人」を持参し、参加者の方々に使ってもらいながら楽しく作業を行ってもらうことができ、汗ばむほどの陽気の中「植えるのがとても楽です」などの感想をいただきました。

これらに先立ち、五月十二日に南牧村の旧野辺山スキー場跡地でオオヤマザクラ等の広葉樹の植樹、五月十八日には川上村の高登谷湖畔でカラマツコンテナ苗の植樹が行われました。

当署職員も各所での植樹に汗を流し、地域緑化活動の一翼を担うことができました。



長野地域森林祭及び  
戸隠ふれあいの森植樹祭

【北信森林管理署】

五月二十七日、上水内郡小川村

の「星と緑のロマン館」及び周辺エリアにおいて、長野地域森林祭実行委員会主催による令和五年度長野地域森林祭が行われました。

森林・林業・木材業への理解を深め、地域緑化と森林資源の整備の推進を図ることを目的に、関係団体や地元の子の緑の少年団など、約百三十名が額に汗を流しながら、シャクナゲ百二十本、イロハモミジ五十本の苗木を植樹しました。



シャクナゲを植樹する緑の少年団



今年で22回目となる戸隠ふれあいの森植樹祭

「御柱の森木の文化を支える森」  
記念植樹を実施

【南信森林管理署】

六月四日、下諏訪町住民等によ

る御柱の森づくり協議会主催の「御柱の森づくり、樫の木街道記念植樹」が東俣国有林において開催され、来賓、協議会員等約八十名で十四本のモミの苗木を植樹しました。

開会式では、主催者を代表して奥村協議会長が「伝統ある諏訪地方の御柱を子や孫に繋げるため百年、二百年先を見据え、御柱の森として守り育てていくことが大切」と挨拶され、当署の次長からは「今後とも森林の多面的な機能を高度に発揮するための森林整備に努めていくとともに、木材供給を通じて伝統文化の継承に寄与することも国有林の重要な役割」と挨拶しました。



また、六月四日には、黒姫山国有林内の「戸隠ふれあいの森」において、戸隠森林植物園ボランティアの会とやまぼうし自然学校主催の植樹祭が行われ、ボーイスカウト長野第一団の団員と保護者など約四十名が参加しました。  
ササの根が張った固い地面に唐鋤やスコップで穴をあけ、ブナやトチノキ、キハダなど、六種類の広葉樹、合わせて二百六十本を植樹しました。植樹した木々が美しい風景や豊かな森林になってくれることを願っています。

その後、下諏訪町の木遣り保存会による木遣りが披露され、甲高い「曳行の木遣り唄」等が響き渡ると参加者から「これはさんのうえー！よいさー！よいさー！よいさー！」と



木遣り唄を声援に植樹する参加者

合の手が入り、植樹への気分が高揚した参加者たちは「立派な御柱になるように」との願いを込め、各地区に分かれて一本一本丁寧に植樹し、ニホンジカの被害を防ぐためのネットで囲み、作業は一時間ほどで無事終了しました。  
御柱の森づくり協議会と当署は、地域伝統文化の森づくりとして、平成十四年に「御柱の森」の協定を締結し、諏訪地方の伝統的な行事である諏訪大社の御柱祭で利用できるモミ大径材の育成を図るための森林整備を進めています。  
今回、植樹した木が御柱となるには長い年月が必要ですが、きっと将来、伝統ある大祭を大いに盛り上げてくれることでしょう。



とやま森の祭典「二〇二二」

【富山森林管理署】

五月二十八日、富山県砺波市の県民公園「頼成の森」において「SDGs 未来のみにちに緑をうえよう」をテーマに「とやま森の祭典二〇二二」が開催され、約二千人が来場しました。



今泉局長による記念植樹

式典では富山県知事の挨拶をはじめ、緑化活動の功績に対する表彰等が行われ、その後、参加者による森づくり活動として記念植樹が行われ、今泉局長と当署の署長が富山県産の無花粉スギ「立山森の輝き」を植樹しました。

また、当署職員五名が森林の役割や国有林をパネルで紹介するとともに、木工クラフトの体験ブースを出展し、多くの家族連れで賑わいました。

「風とせせらぎの森林」で

森林整備

【富山森林管理署】

五月二十日、大沢野国有林において「社会貢献の森」の協定を締結しているNPO法人きんたろう倶楽部（以下、「倶楽部」と混入している竹の除去作業を行いました。

同国有林は、風害を防止する防風保安林に指定されており、防風機能の維持を目的に、森林整備の活動が行われています。

当日は、倶楽部の会員七名と当署の五名が参加し、安全第一で竹をノコギリで切り倒し、チップで細かく粉砕し、林内へ戻しました。



作業に参加した倶楽部の会員と当署職員

水無国有林で

自然観察会を開催

【富山森林管理署】

六月四日、富山県南砺市利賀村の水無湿原において、「第三十回富山県ナチュラリスト利賀大会」が開催され、県内のナチュラリスト会員約六十名が参加し、当署からは署長をはじめ四名が参加しました。

水無湿原は、希少個体群保護林に設定されていますが、近年は、湿原の乾燥化が進むことによる湿性植物の減少や、イノシシによるミズバショウの被害が発生しています。このため、地元NPO法人利賀飛翔の会等と連携し、湿原の保全活動に取り組んでおり、当日もイノシシの被害対策として、ワイヤーメッシュの敷設作業を行いました。

自然観察会では、湿性植物のほか、ギフチョウやモリアオガエル、サンショウウオの卵塊も観察できました。天候にも恵まれ、参加された方々は、湿原でのひとときを満喫されていました。



自然観察会の様子



イノシシ被害対策によるワイヤーメッシュ敷設作業



ミズバショウ



## 湿原の植生を守れ！ 一つの湿原に電気柵を設置

【飛騨森林管理署】

五月二十三日、飛騨市河合町の天然国有林内に所在する天生湿原において、獣害対策用の電気柵の設置作業を飛騨市役所及び天生県立自然公園協議会のメンバー等とともに実施しました。

天生湿原は、世界遺産白川郷に接し、標高約一、四〇〇メートルに広がる約三分の二の高層湿原で、ミズバショウやニッコウキスゲなど、湿原を代表する植物が春から初秋にかけて見られ、北アルプスの山並みなど、眺望が素晴らしい標高一、七四四メートルの糶糠山への登山道や湿原の探勝路も整備されています。

そのため、多くの観光客等が訪れる場所となっていますが、近年はイノシシなどによる獣害が多く発生しており、その対策として、毎年この時期に電気柵を設置し、被害の軽減を図っています。

この日は、時折小雨が降る天気でしたが、当署からはグリーンサポートスタッフを含む九名が参加

し、協議会メンバーと協力しながら湿原を包囲する電気柵の設置作業を行いました。

初めて設置作業を行う職員もいましたが、徐々に設置の手際やチームワークが良くなり、当初の予定時間よりも早く作業を終えることができました。

ミズバショウの時期は過ぎつつありますが、湿原に隣接するブナやカツラの木が広がる森林も含め、見所がいっぱいの天生湿原に是非お越しいただければと思います。



ミズバショウが咲く天生湿原と作業風景

また、六月四日には高山市荘川町の山中山国有林の山中峠（標高一、二七五メートル）付近に広がる約二ヘクタールの湿原において、高山市役所及び地域の有志、岐阜大学の学生等と電気柵の設置作業を行いました。

この湿原に群生するミズバショウは、日本における分布の南限にあたり、希少個体群保護林に設定するとともに岐阜県の天然記念物にも指定されており、こちらもイノシシやニホンジカによる湿地の攪乱や採食の被害が拡大したため、十年ほど前より毎年協力して設置しています。

また、この湿原をフィールドにして、岐阜大学応用生物科学部の安藤先生を中心に被害を受けたミズバショウ群生地への回復に向けた調査と人工移植などの研究が続けられています。

作業当日は、心配された台風の影響も無く、爽やかな陽気のなか、予定どおり午前中で作業を終えることができました。これまでに実施してきた本活動の成果として、ミズバショウも徐々に増加傾向にあるとの報告が大学関係者よりあ



山中峠付近の湿原における電気柵設置作業

りました。今後このような地道な調査や研究により、湿原の植生復元につながることを期待したいと思います。

当署では両湿原をはじめとして、今後も希少な植生などの保護に向けて、関係団体と連携しながら取組を行っていきたくと考えています。